

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 此花区
学校名 大阪市立高見小学校
学校長名 岩永 磨美子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになつた現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・高見小学校では、第6学年 67名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科は大阪府平均正答率を6ポイント、全国平均正答率より5ポイント上回った。4年間取り組んだ国語科の授業研究の成果が表れ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」とともに、全国・大阪府平均正答率を大きく上回った。算数科は全国平均正答率、大阪府平均正答率共に4ポイント下回った。特に課題である「数と計算」について正答率が大阪府平均正答率、全国平均正答率より7ポイント下回った。理科は、大阪府平均正答率を3ポイント、全国平均正答率より2ポイント上回った。無回答率は国語科、算数科、理科ともに全国平均を大きく下回り、国語科は無回答の児童割合が0で、他の2教科も1を切っていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全国平均正答率を4.2ポイント上回った。自分の考えを書くこと（短答式・記述式）において、全国平均より4.8ポイント高い。目的や意図に応じて話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができるといえる。これまでの校内研究「読み取り、活用する力」を高める指導の成果である。一方、文章の内容をまとめたチャート図を選択する問題「情報の扱い方に関する事項」においては全国平均を下回った。目的に応じて文章や図表を結びつけて考える力が必要である。

〔算数〕すべての領域で全国平均を下回った。「図形」「データの活用」の領域は、-0.5ポイントだった。「変化と関係」が特に低く-8.4ポイント、続いて「数と計算」が-7.7ポイントだった。割合や分数と小数、整数の関係について課題が見られる。また、選択式、短答式、記述式の問題形式すべて下回っているため、児童が問題を正しく理解し表現できるように授業の改善をすすめていきたい。

〔理科〕全国平均と比較すると、エネルギー領域は-7.2ポイント、粒子領域は-1.4ポイント、生命領域は+12.5ポイント、地球領域は-1.2ポイントであった。エネルギー領域の「電流と電磁石」の単元において、知識の定着に課題が見られたので、手立てを考えていく必要がある。また、記述式の回答では、全国平均を19.7ポイント上回った。これまでの学習において、自分の考えを書くということを大切にしてきた成果であると考えられる。

質問調査より

本校では、人権教育年間計画を作成し、互いの違いを理解し、認め合う児童集団の育成に努めている。その結果、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思います。」では、肯定的な意見が全国・大阪市の平均より大きく上回った。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「自分によいところがありますか。」などの質問についても、肯定的な回答の割合が全国・大阪市より上回った。今後も継続して互いの違いを理解し、認め合う児童集団の育成を行っていきたい。また、昨年度は肯定的な回答の割合が全国・大阪市を下回った「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」などの自己肯定感を問う質問についても、全国・大阪市の平均を上回り、学校全体で行った人権教育の成果が見られた。

今後の取組(アクションプラン)

今年度も「誰一人取り残さない学力の向上」に向け、学力向上支援チーム事業、算数科の校内研修をさらに充実させ、教員の授業力向上を目指すとともに、ICTを活用して教科の復習などを行い、児童の基礎・基本の定着を継続して行う。学力に課題の見られる児童に対しては、学年全体で協力できる体制を構築し、きめ細かい指導・支援を行うことで、さらなる学力向上を図る。研究教科は、学習の基本である算数科に重点を置き、「主体的に問題を解決しようとする児童の育成」「対話的な学びを目指した指導法の工夫」を目指す。その際、児童が自ら考え解決する力を身に付けるための実践的な研究と、それらを発展させ豊かに表現する力を身に付けるための研究を、段階的に取り組んでいく。児童質問紙より明らかになった課題については、昨年度から引き続き、本校の人権教育年間計画を基に、各学年ごとに自己肯定感や自己有用感を高めるような取り組みを行ふことで、自尊感情の向上を目指す。

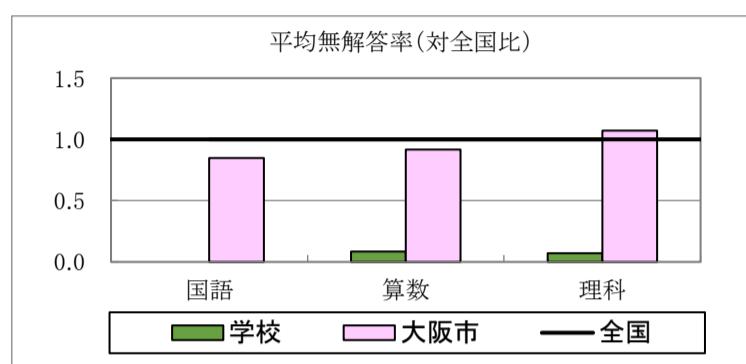
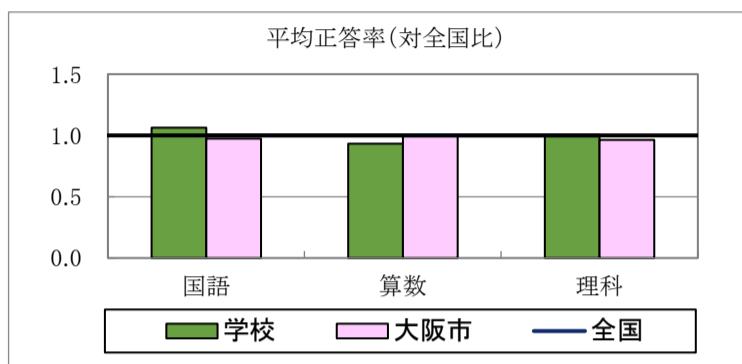
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	71	54	57
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	0.0	0.3	0.2
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



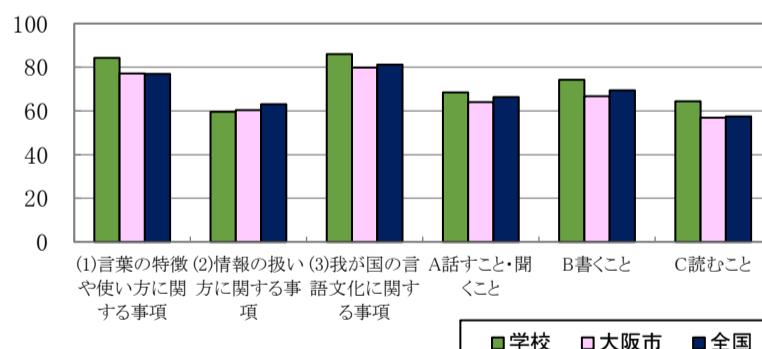
【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	84.2	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	59.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	86.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.4	64.0	66.3
B 書くこと	3	74.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	64.5	56.9	57.5

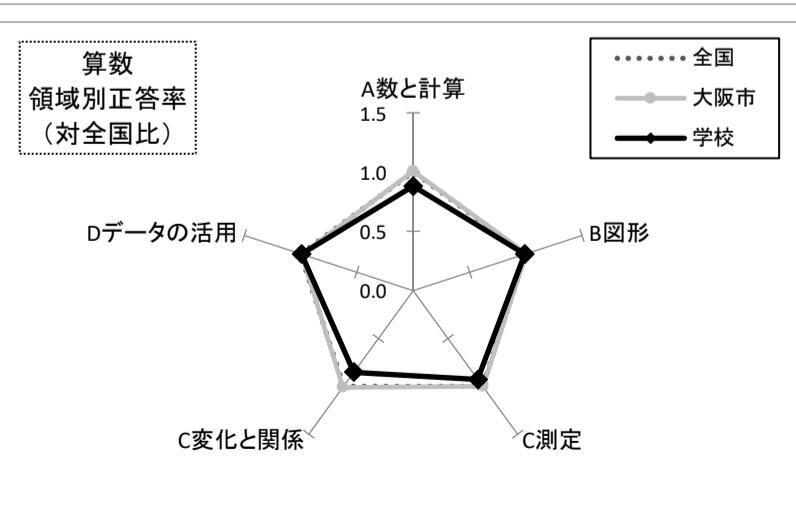
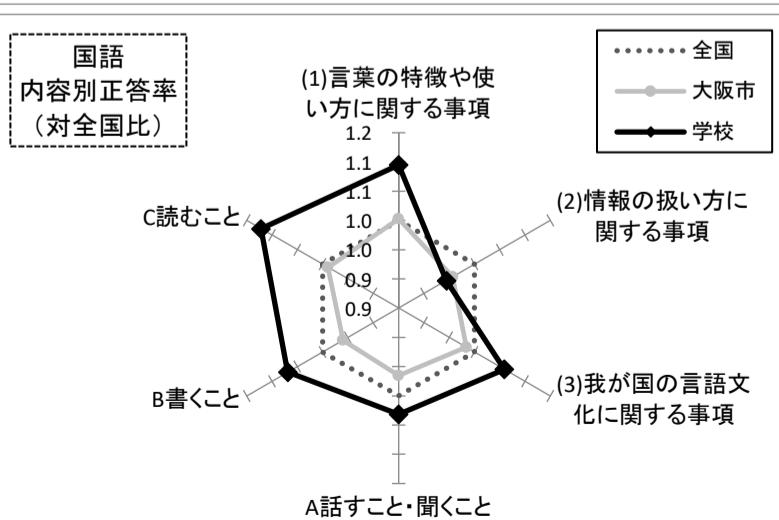
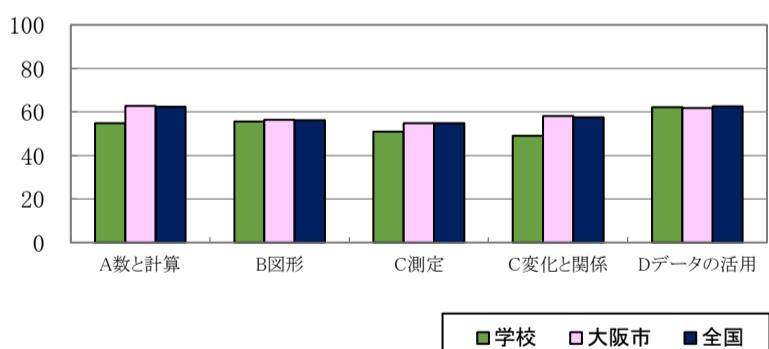
【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	54.9	62.7	62.3
B 図形	4	55.7	56.4	56.2
C 測定	2	50.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	49.1	58.2	57.5
D データの活用	5	62.1	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

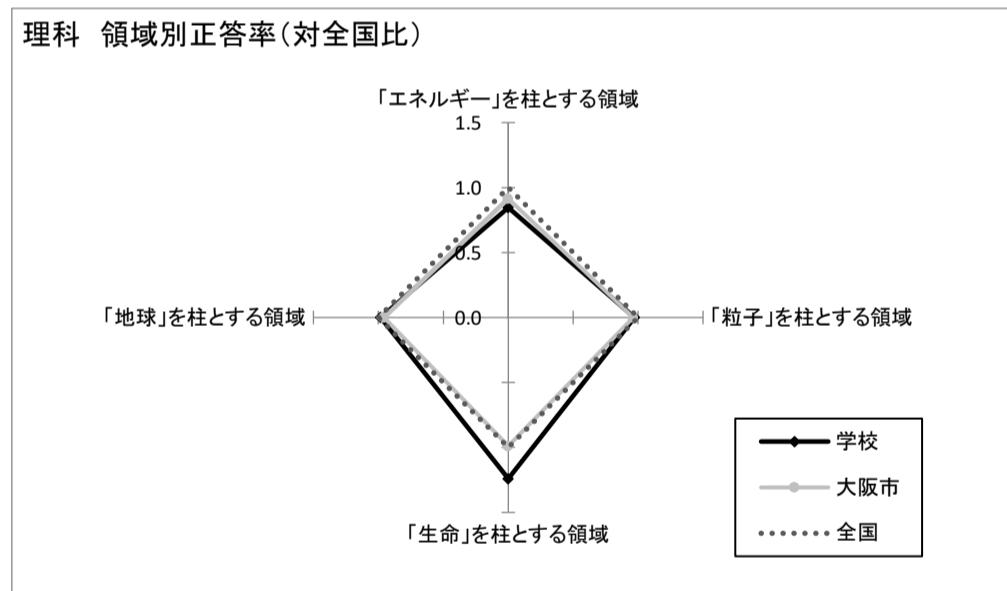
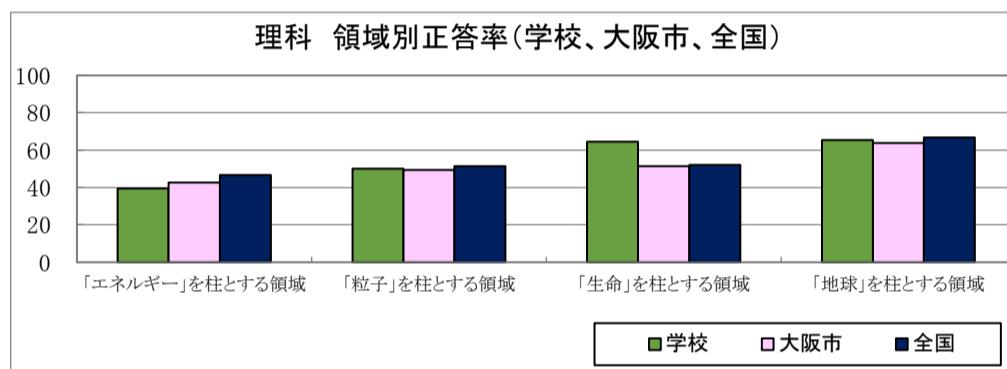


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.5	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	50.0	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	64.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	65.5	63.8	66.7



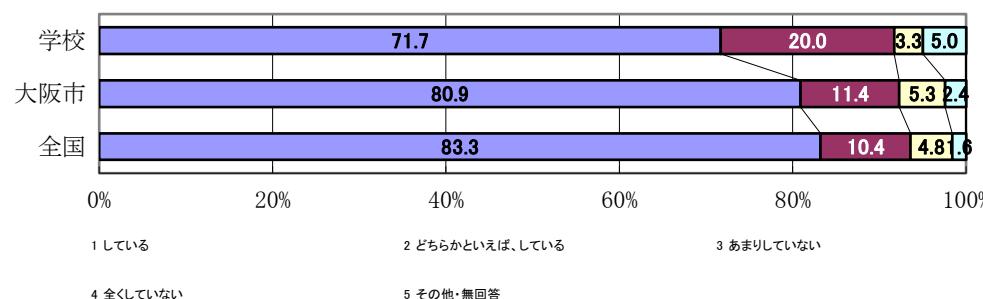
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

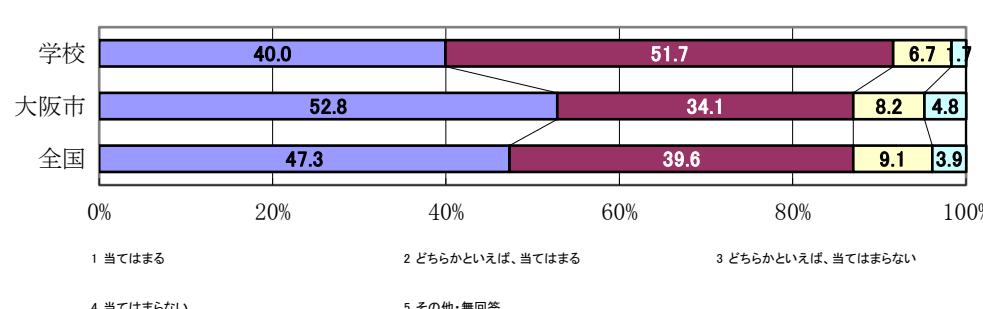
1

朝食を毎日食べていますか



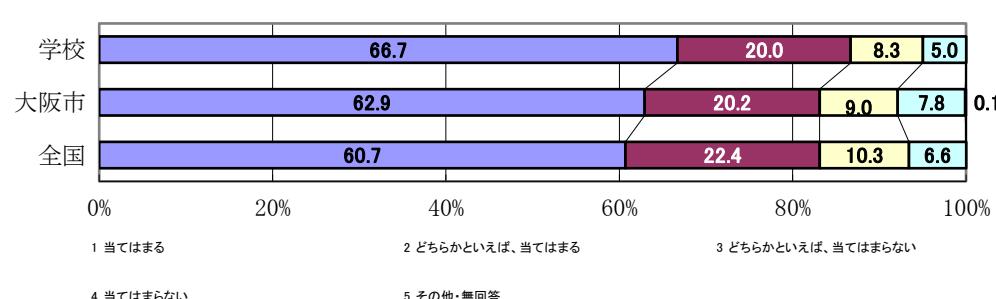
5

自分には、よいところがあると思いますか



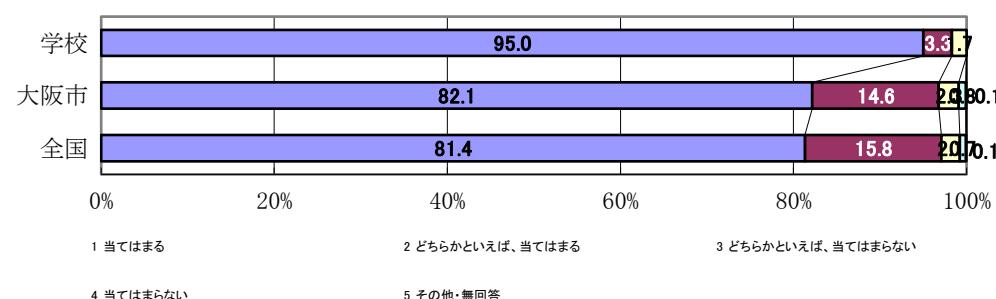
7

将来の夢や目標を持っていますか



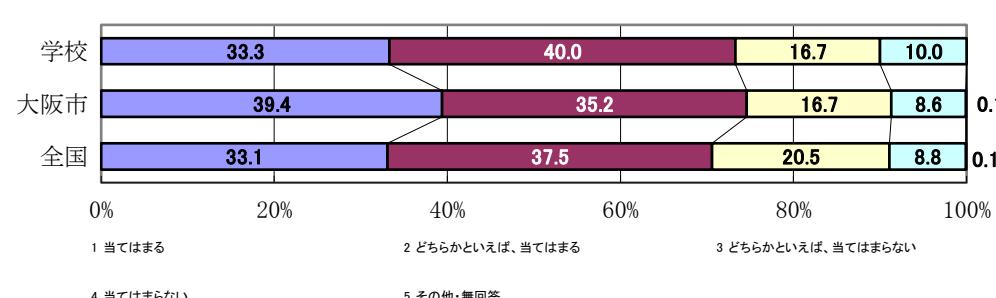
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



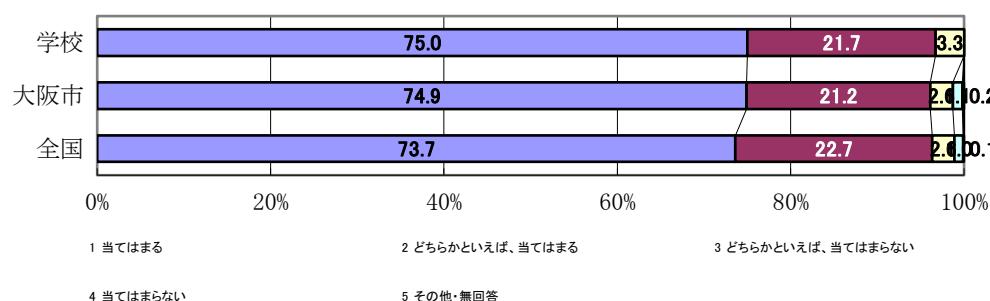
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

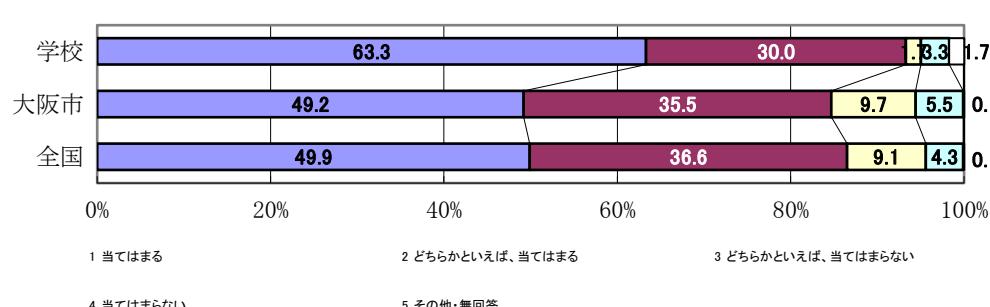
11

人の役に立つ人間になりたい
と思いますか



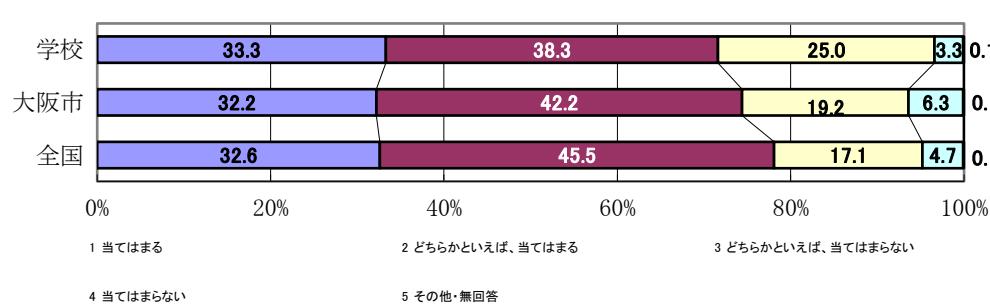
12

学校に行くのは楽しいと思
いますか



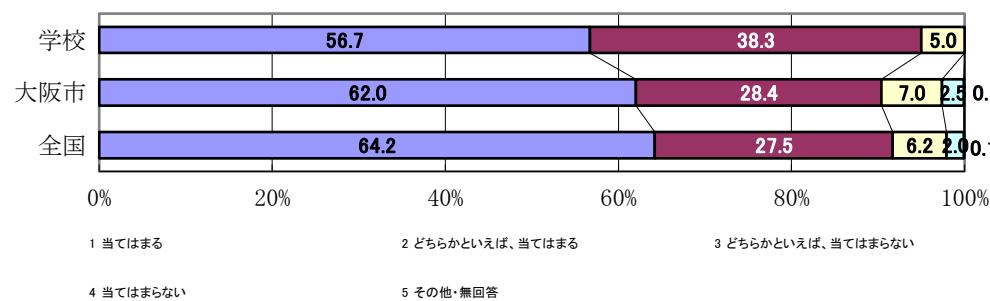
13

自分と違う意見について考
えるのは楽しいと思いますか



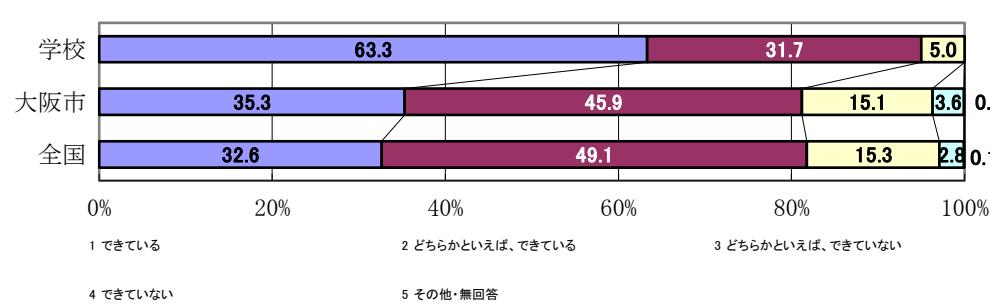
14

友達関係に満足していますか



16

分からぬことやくわしく知りた
いことがあったときに、自分で
学び方を考え、工夫することは
できていますか



学校質問より

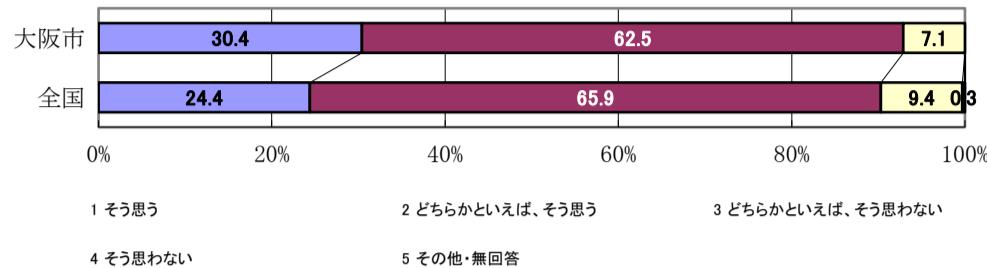
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

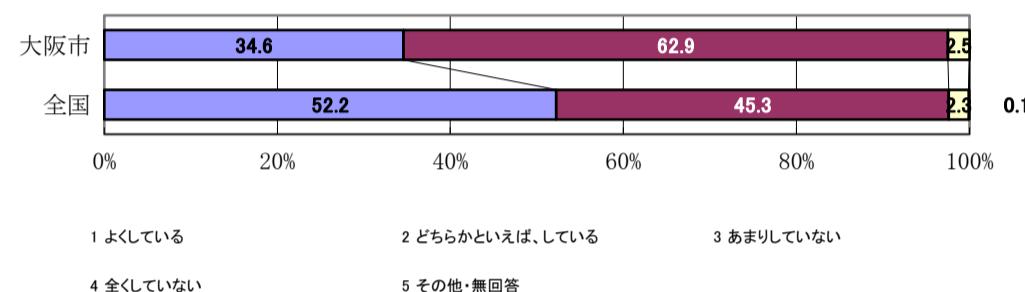
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

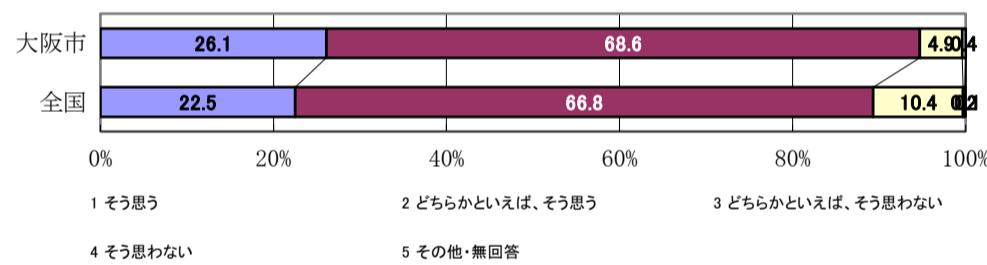
学校 「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

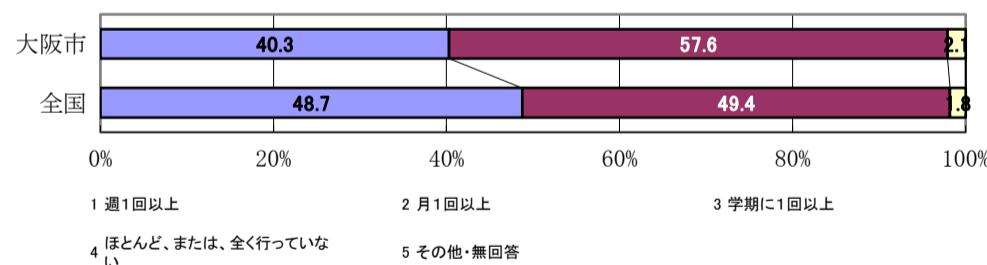
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



54

調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「週1回以上」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

